

令和 6 年度小佐野記念財団
高校生国際交流事業（台湾）
感想文集

内容

小佐野記念財団高校生国際交流事業（高雄市）概要

～参加者感想文～

甲府東高等学校 松山 絢星

甲府東高等学校 鷹左右 まさみ

都留高等学校 小山田 尋香

甲府西高等学校 小林 信太朗

甲陵高等学校 小寺 晴乃子

甲陵高等学校 大塚 空遼

甲府工業高等学校 天川 登夢

甲府第一高等学校 鎌田 紗和

小佐野記念財団高校生国際交流事業（高雄市）概要

- 1 日 時 令和7年3月24日（月）～26日（水）
- 2 場 所 台湾・高雄市
- 3 内 容 (1) 六合夜市、美麗島駅散策
(2) 高雄市政府教育局表敬訪問
(3) 中山高級工商職業学校訪問
(4) 市内視察

(1) 六合夜市、美麗島駅散策

日 時：令和7年3月24日（月）19時30分～21時00分

場 所：六合夜市、美麗島駅

内 容：高雄市最大の夜市である六合夜市を訪問。タピオカミルクティーやお菓子など現地のグルメを楽しみながら散策した。その後、近隣の美麗島駅を視察した。

(2) 高雄市政府教育局表敬訪問

日 時：令和7年3月25日（火）9時00分～9時30分

場 所：高雄市政府教育局

内 容：主任秘書を表敬訪問し、記念品の交換および意見交換を行った。主任秘書からは、高雄市の教育における国際的視野を高めるため、国際教育推進に力を入れていることや、市内には日本の学校と姉妹校締結している学校が多くあることなどの発言があった。

(3) 中山高級工商職業学校訪問

日 時：令和7年3月25日（火）10時30分～15時00分

場 所：中山高級工商職業学校

内 容：日本の私立高校にあたり、生徒数1万人、敷地面積13ヘクタールと台湾の中でも最大級の規模を誇る学校の生徒との交流を行った。

・ 歓迎会

大多数の学生からの盛大な歓迎を受けて入場。学校長および学生代表から歓迎の挨拶をいただいたほか、学生によるダンス披露、学校紹介動画の放映があった。本県からも事務局及び学生代表から挨拶。

・ キャンパスツアー

中山高商の生徒の案内による校内見学を実施。複数の少人数班に分かれ、生徒同士の交流を深めながら学校内施設を見学。

・ クラス別交流

クラス毎に企画された交流イベントに参加。企画は生徒たち自身で行ったもので、ゲームやカラオケなど楽しみながら交流

自身で行ったもので、ゲームやカラオケなど楽しみながら交流を深められた。本県生徒からは山梨県の紹介プレゼンテーションを実施した。

(4) 市内視察

日 時：令和7年3月26日（金）8時00分～10時45分

場 所：蓮池潭、お土産屋

内 容： 高雄屈指の観光地である蓮池潭などを視察。写真撮影などを楽しんだほか、お土産屋を訪問し各自楽しんだ。その後高雄市国際空港に向かい、帰路についた。

(1) 六合夜市



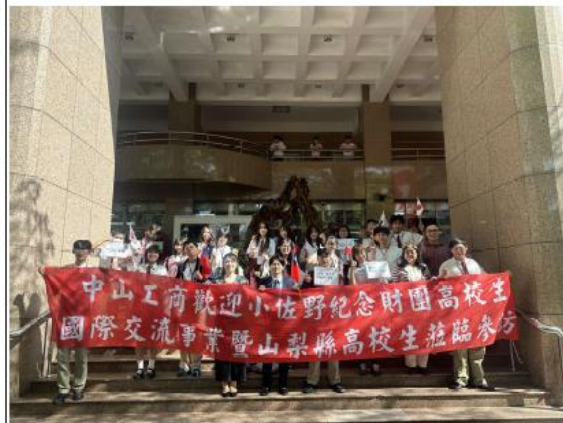
(2) 高雄市政府教育局表敬訪問



(3) 中山高級工商職業學校訪問



(3) 中山高級工商職業學校訪問



(4) 市內視察



(4) 市內視察



事業実施報告書 甲府東高等学校 1年 松山絢星

3日にわたる国際交流事業の事業実施を報告する。

今回私が参加するにあたって、学びたいことを3つ掲げていた。1つ目は日本と台湾の生活。2つ目は、台湾での観光。そして3つ目は、日本が好まれる理由である。これらに対する回答や考察を含めて1日目から3日目までを振り返る。

1日目、飛行機から降りて早速日本と台湾の違いを発見した。それはバイクの交通量が日本の何倍も多いことだ。また、空気感や匂いはやはり独特だと感じた。その後はバスで移動し、夜市へ訪れた。見慣れないフルーツや食品は想像とは異なる味わいだと感じた。さらに、値段交渉をした。日本ではあまりしないため新鮮であった。ホテルはあまり日本との違いはなかったがホテルに限らず、どここのトイレもトイレトペーパーはゴミ箱にすてる方式であったことに非常に驚いた。

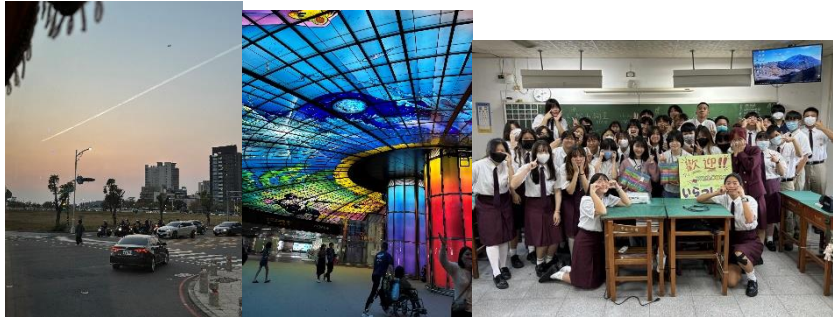
2日目は高雄市政府教育局と中山高級工商職業学校を主に訪問した。伝統的なパフォーマンスを鑑賞し、広い敷地内の散策やクラスで交流会に参加した。特に同年代の生徒との交流はとても印象に残っている。例えば、ジェスチャーゲームではランダムで当たった人が参加したが、本当に分け隔てなく接する姿勢や笑顔溢れる表情は親しみやすさがあり、例え言葉が通じなくても関わりたいもっと話したいと前向きな気持ちにさせてくれた。また、山梨県で有名なももやぶどうの話を聞いた。ぶどうは食べる

がももは食べない。私は衝撃を受けた。なぜなら、山梨県から台湾へのももの出荷は多いと思っていたからだ。やはり現地でできくと解釈の違いに気づき新たな意見を得られる。なぜももが有名になっていないのか考える必要があると強く感じた。学校にお別れしたあとは観光をした。路面電車が走っていて滅多に見る機会はないので興味がわいた。その他にもブランコ、橋、写真を撮りたくなるようなスポットが多いと思った。

3日目、3日間で最も暑いと感じた。最終日は市内観光から始まった。公園には暖かい地域に見られる植物が育っており、普段気にしないような木や植物に触れる機会になった。蓮池潭は少し複雑な道が構成されていてそこにも経緯や理由があると聞き興味深いと感じた。宗教的要素が深く関わっているようだ。

日本と台湾の生活の違いは何かという疑問に対しての回答は、トイレットペーパーの処理の仕方。値段交渉の有無。学校でリラックスタイムが設けられる。食の好みは台湾人のほうが甘党であると思った。それならば、糖度の高く甘味を感じやすいももを出荷すると良いのではないかと考察した。台湾での観光について、全体的に写真映えするスポットが多い。そのような場所は色鮮やかさがある。日本が好まれる理由については、アニメやキャラクターが豊富であること。台湾がごみを減らす政策と同様に綺麗な街並みを保全することが挙げられる。

3日間で多くの人とふれあい台湾の産物や文化に関わることができて本当に素敵な経験になったと思う。関わってくださった方に感謝し、これからも励みたい。



山梨県立甲府東高等学校 1年 鷹左右まさみ

今、世界中に自分の考えを発信できる時代になったからこそ、私も何か、世界に向けて一つ挑戦してみたいと思い、この派遣事業に応募しました。

もともと私は、留学やいろいろな国の人と関わることに興味があり、特に台湾にも行ってみたいという思いがありました。とにかく、たくさんの人と触れ合って、話がしてみたいという気持ちが強かったです。

面接の書類に書いた「相互理解に必要なことは、相手の文化をまず自分が好きになること」という言葉を忘れずに、3日間、さまざまな人との出会いを大切にしようと決意して参加しました。

正直なところ、私は勉強が得意ではありません。英語も話せません。勉強に対する意欲もこれまであまりなかったと思います。

でも、この事業に参加したことで、自分自身について見つめ直し、大きく成長できたことがいくつかありました。

その中の一つが、「またみなさんと会えるように、もっともっと自分を高めていきたい。頑張っていきたい。」と心から思えたことです。台湾の人たちは、事前に調べた情報以上に、優しくて温かくて、人懐っこい方が多かったです。

街中で笑顔でいると手を振ってくれたり、待ち時間に気さくに話しかけてくれたりして、とても明るくて親しみやすい国だと心から感じました。

今、さまざまな問題や不安がある世の中でも、初めて出会う私たちにこんなに温かく接してくれることが本当に嬉しく、感動しました。

台湾では、英語よりも台湾中国語や日本語が伝わる場面が多く、**思った以上に日本語が通じたことにも驚きました。**

特に、日本語クラスの生徒の方々とはたくさん日本語で話すことができて嬉しかったし、自分の覚えた数少ない台湾語を使って交流できたことも、とても印象に残っています。

また、台湾には日本のことが本当に好きな人がたくさんいることにも驚かされました。街中には日本語が混ざった看板や表記が多く、英語よりも日本語のほうが伝わる場面もありました。日本円が使えるお店もあったし、コンビニには私たちにも馴染みのある日本の商品がたくさん置かれていました。

訪問した学校でも、それを強く感じました。私は日本語クラスの生徒たちと交流したのですが、話しかけてくれた言葉はほとんど日本語で、とても驚きました。日本のアニメが好き、食べ物が好き、文化が好き、キャラクターが好き…それぞれの「好き」が、日本語を学ぶ原動力になっていることが伝わってきました。それがとても嬉しくて、こんなにも日本を大切に思っている人がいるんだと思うと胸が熱くなりました。そして、私も同じように、台湾のことが大好きになりました。

成田空港で出会った台湾から来ていた旅行者の方、トイレの待ち時間で話した日本の方、ガイドのゆりさん、訪問先のみなさんこの3日間で出会ったすべての人との関わりが、今の私の宝物です。台湾で出会った友人とは、今も連絡を取り合い、お互いの国や好きなことについて対話を続けています。とっても大きくて、温かくて、大切な出会いでした。そして、日本から一緒に派遣された7人の仲間、引率して下さったお2人の方々とも出会えたことが嬉しく、心から感謝しています。この派遣事業を通して、私はもっともっと世界に出て、いろいろなことを見て、たくさんの「好

き」を共有できる人になりたいと強く思いました。この貴重な経験を忘れずに、またみなさんと出会えるように、これからも頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。

山梨県立都留高等学校 小山田尋香

私はこの交流事業を通して、さらに海外への興味を深めることができました。初めは緊張や不安が大きかったのですが、8人の仲間とともにたくさんの初めての体験を楽しむことができました。私自身台湾には2回目の訪問でしたが、改めて海外と日本の文化や言語の違いを発見することができました。

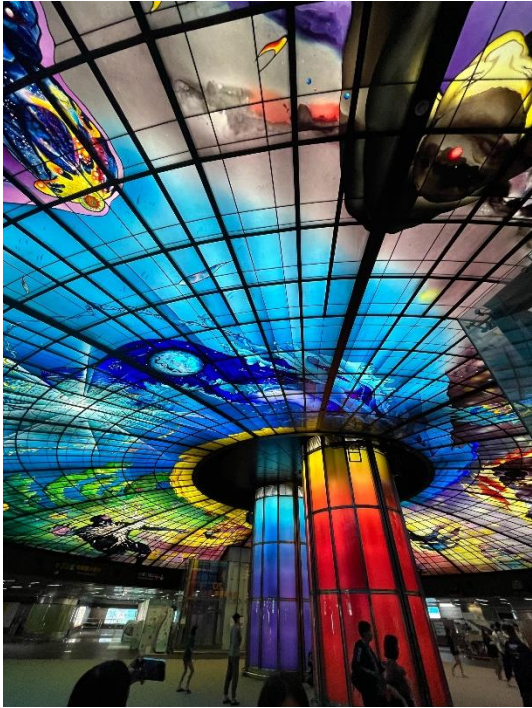
特に私が驚いたことは次の3つです。

1つ目は食文化です。日本では基本的に家で家族が作ったものを食べることが多いですが、台湾では夜市などで買ったものを食べるというのが一般的だという文化に驚きました。これは共働きの影響から生まれた文化だと学びました。夜市はまるでお祭りのような雰囲気で、現地の人々もとても優しく接してくれどの料理も美味しそうでした。

2つ目はバイクの多さです。台湾では日本よりもバイク文化が根強く、一家に2台以上あることが一般的だそうです。街のどこを見てもバイクが走っており、高校生もバイクで移動しているのが印象的でした。また排気ガスが環境汚染を防ぐためにバイクから出ないようにしている点にも驚きました。国全体で環境に配慮している点は日本も見習うべきだと感じました。

3つ目は台湾の高校についてです。私は初めて台湾の高校に訪れましたが、たくさんの生徒や先生方に歓迎してもらいとても嬉しかったです。台湾の伝統的な踊りを披露していただきさらに台湾についての興味が深まりました。学校案内では、施設や教室について丁寧に説明してくれました。私の通っている日本の学校とは違い、学校の規模や人数、設備、制服の違い、そして日程の違いなどさまざまな点が発見することができました。特に午後にお昼寝の時間があることには驚きました。集中力を高めるための取り組みとして、とても有効だと感じました。

この国際交流を通して私は多くの面で成長できました。言語が異なるためコミュニケーションが難しい場面もありましたが、身振り手振りを使って会話することができ、これからの生活にも活かしていきたいと思いました。また文化の違いを実感し、お互いの文化を尊重する気持ちが一層強くなりました。自分で考え、行動することの大切さも学び将来は国際的に活躍できる人になりたいと考えるようになりました。たくさんの人と出会い、貴重な体験をさせていただいたことに心から感謝しています。この交流は、私にとって最高の思い出となりました。





～実績報告書～

山梨県立甲府西高等学校 2 年次 小林信太郎

今事業では 2 泊 3 日で台湾高雄市を訪れた。以下、日ごとに報告を行う。

1 日目、現地時間 16 時頃に到着。その後、海鮮料理店、六合夜市を訪れた。高雄市が港町であるため、どれも新鮮で海鮮の味が際立っていた。六合夜市では、屋台が通り一面を覆い尽くしていた。また、屋台を運営者の男女比はほぼ一定で、飲食に関する屋台が多いことに気がついた。これらの理由として、夜市が「出稼ぎの場」と「手軽な夕食の場」という 2 つの役割を果たしているためであると知り、印象深かった。

2 日目は高雄市政府教育局への表敬訪問、中山高級工商職業学校、駁二芸術特区、台湾料理店を訪れた。学校訪問では、伝統的な台湾の民族舞踊、台湾文化に関するプレゼンテーション、台湾で有名なカードゲーム及びお土産についての紹介を通して交流が行われた。「昼休憩」の時間は自身の席に着き睡眠や学習を静かに行うこと、学科として学生の資格取得を進めていること、プレゼンテーション能力が高いことを感じた。一方、日本と同様の「第二言語」に関する課題（話す能力の育成）を抱えていることも分かった。しかし、読み書き等の工夫をしてお互いに言語の壁を乗り越えるため努力した。台湾の教育事情をしのげた有意義な時間となった。駁二芸術特区に関しては、昔倉庫にしていたところを観光地として利用していたため、今昔が両方感じられる空間であった。

3 日目は連池潭へ訪問した。連池潭には大災害から池を守ったとされる塔があった。現在は工事中であり、職人の手作業によって復旧作業が進められていた。塔は 2 つあり、教訓・信仰の 2 つの側面があるとされ、龍の口から入り、虎の口から出ることで邪気を払い、幸運を呼ぶとされている。池の向かいには寺院がありその寺院にも訪れ、内装外装共に派手であるのが信仰の違いを感じられた。

その他として、交通面・環境面で相違点を見つけられた。具体的には右側車線であること、大通りでは車とバイクが別車線であること、青信号は全て矢印表記であること、高速道路が無料などが挙げられる。また、環境への配慮として電動バイクの推奨、アメニティの廃止、ポイ捨てへの厳罰化などが挙げられる。

今回の交流では、異文化に触れ合うことは自分の価値観を広げるきっかけになると分かった。また、「言語の壁」は互いにコミュニケーションを取ろうとするならば、簡単に超えられると学んだ。今後、より多くの国へ渡航したいという気持ちを駆り立てた 3 日間であった。



今回私は「自分の中の新たなものさしを増やす」ということを目標にこの事業に参加した。本事業を通して学んだこと、得たことをこの報告書を通して振り返る。

まず、私が「自分の中のものさし」が重要視する理由は、他者と自身を比べたときにのみ気づくことのできる新たな視点があると考えられるためである。その「ものさし」という価値基準は経験と気づきをもってのみ得ることができると考える。そのため、「台湾文化」という、今まで知らなかった異文化に触れ、新たな「ものさし」を得ることが目標であった。

気づきが多かったのはやはり、2日目の学校訪問だ。台湾文化は中国文化とほぼ同じだと思っていた私にとって、台湾特有の民族舞踊で迎えてもらえたことは想定外で、とても驚いた。日本の学校では民族文化、伝統芸能に取り組む部活などはそれほどメジャーではない。そのため、台湾では高校生がそれを受け継いでいこうとしているのがとてもすてきだなと思った。現地の高校生は私たちを温かく迎えてくれた。英語に関しては、互いにまだ流暢に、とはいかない。それでも身振り手振りを持ちながら知っている単語をつなぎ合わせ、コミュニケーションを取ることができた。翻訳機を使わずに、伝えたいという根気だけで会話していたことは今振り返ると少し面白く思える。他国に行くとき毎度思うが、やはり英語は一種のツールに過ぎない。本質的には人と人のコミュニケーションである。私と変わらぬ年代の生徒たちは、私と同じようなことに喜び、驚き、友達と日々を過ごしている。そこに大きな違いはないと改めて感じた。特に、一緒に写真を撮る際、「加工フィルターはつける？」と聞かれ、普段の日本での友達との会話のようで、それはどこも共通なのかと思い、すこし面白く、とても嬉しかった。

街の様子で気づいたことと言えば、日本製品の多さである。デパートの地下は案内では「世界グルメ」と記載されているにも関わらず、並んでいる商品は、日本のものばかりで少し拍子抜けしてしまった。しかしそれと同時にここまで日本を友好的に思ってくれているのはとても嬉しいことだと思った。

また、見学したお寺もとても興味深かった。そもそも、道教という宗教があるということも知らなかった。宗教はその国の生活にも大きく関わってくるため、個人的には、現地の高校生に信仰しているものについてリアルな声を聞いてみたかったという心残りがあ

る。

台湾の人々はみな、とても温かい人ばかりだった。昨年、同様の海外派遣プロジェクトでベトナムを訪問した。ベトナムでも今回の夜市のような市場を見学し、日本とは全く違うその雰囲気によって圧倒され、とても高揚したが、その時は窃盗にあうかもしれない恐怖が大きかった。今思うと、観光客を狙おうという人の悪意を感じていたのかもしれない。しかし、今回台湾ではそれが全く感じられなかった。人々の雰囲気も柔らかく、何か買えばおまけもしてくれるというサービス精神も旺盛で、夜の市場であるにも関わらず、心から楽しむことができた。

一方で、台湾で1番カルチャーショックだったのはやはり水回りだろう。特にトイレ事情には少し戸惑った。水が流れないというのは日本人にはなかなか受け入れがたいものではあった。しかしこの経験のおかげで、その日本の衛生設備の素晴らしさを改めて認識できた。

台湾に限ったことではないが、日本のものや文化、人が世界に誇れるものであるのは今までに世界で活躍してきてくれた先人たちのおかげであると思つづく。日本に外国からの客人を迎えたとき、私たちからするとその人がその国の代表のように感じられ、その人の印象がその国の印象に直結するのと同じように、今回の旅で出会った人々にとって、きっと私たちは日本という国の代表だろう。これからさらにグローバル化していく社会で、先人たちが築き上げてきてくれた大和魂を汚すような事はしたくないと心から思う。そしてそれは私たち新世代の責任であると思う。

以上の台湾での経験はもちろん私を成長させるものであったが、今回の研修で忘れていけないのは、ともに旅をした7人の仲間との出会いだ。同じ山梨県内に暮らしているにも関わらず、互いを知らなかった仲間との出会いは、それぞれの志に向けて励む、切磋琢磨しあえる仲間との出会いであった。こんなにも近くに、自分の目標に向かって励む仲間たちがいることを知り、一層気を引き締めていかなければならないと思った。

「台湾」という新たな「ものさし」を得て知った、台湾の温かく、伝統を重んじる人々の生活、日本の清潔で、丁寧な文化。それらを自分の考え方の引き出しにし、今後も世界を知り、向き合うことを大切に、人とつながっていききたい。

最後に、支えてくださった五味さん、中込さんを始め、多くの県職員の皆様、私たち青少年に期待と希望を持ち応援してくださっているすべての方々に感謝の意を表し、報告書以上とする。

貴重な体験をありがとうございました。



机に向かうだけでは学ぶことのできない、他言語間でのコミュニケーションにチャレンジすること。今回私がこの台湾での国際交流事業で意識したことだ。

実際に夜市での買い物や、現地の高校生との交流を通し学んだことは多くあった。

3日間の貴重な経験を振り返り、今後この経験をどのように活かしていくかについて記したい。

○3/24

1日目は移動がメインの一日だった。成田空港から飛行機が離陸する瞬間は今でも忘れられない。これから始まる初めての国での3日間が楽しみで仕方がなかった。

台湾に到着していちばんに感じたのは気候の違いだ。日本の3月では考えられない少しぬるい空気に驚いた。

またバスの中で通訳のユリさんからたくさんのお話を聞くことができた。簡単な台湾語から一般常識、これから行く場所についてなどを教えていただく時間はとても楽しかった。

高雄の美味しい海鮮料理を食べた後には六合夜市に向かった。夜市ではユリさんの力も借りながら楽しくショッピングを楽しんだ。屋台でおみやげを購入したのだが、「多謝(ドーシャ)」(「ありがとう」の意)や「李真水(リーチンスイ)」(「あなたは美人ですね」の意)といった簡単な台湾語が伝わりとても嬉しかった。発音は拙かったかもしれないが、笑顔を返してくれる現地の人々とのコミュニケーションは心温まる体験となった。

○3/25

2日目は高雄市教育局を訪問した後に、中山高級工商職業学校へ訪問した。最初の歓迎会は、たくさんの生徒が歓迎してくれていることがひしひしと伝わる会だった。現地の高校生は皆優しく、私たちに積極的に話しかけてきてくれたことがとても嬉しかった。私が交流したクラスは日本語を学習する学科だったため、日本文化が好きな生徒や日本語での意思疎通がとれる生徒が多く交流は充実したものになった。インスタグラムを交換したり、お互いのことについて話したりする時間は国籍や使っている言語に壁がない普通の高校生同士のような感覚だった。最初は双方緊張していたように思われたが、身振り手振りを交え少しずつコミュニケーションを深めていくことができた。

夕方からは駁二芸術特区にて観光、ショッピングをした。台湾モチーフのお土産を購入し、芸術特区のフォトジェニックな雰囲気を楽しんだ。

夜ご飯には様々な台湾料理を食べた。3日間で食べた台湾料理はどれも美味しく、日本人の口にもあうものだったが、やはり台湾独特の香辛料の風味や味付けで興味深かった。ここからは個人の感想になるのだが、台湾料理には甘めの味付けのものが多く、香辛料の独特の香りとソースなどの甘みがやみつきの味になった。ぜひまた食べてみたいと思う。

○3/26

3日目は蓮池潭付近を観光した。有名な龍と虎の棟や近くの寺院に行き、台湾の仏教についても少し知ることができた。通訳のユリさんが日本でいうおみくじのようなものの仕組みを教えてくれたので、今度台湾に再訪問した際にやってみたいと思った。同じ仏教だとしても日本とまったく違う風習があることに驚き、宗教的な違いについても学ぶことができた。

その後高雄国際空港から成田空港まで移動し、無事全員日本に帰ってくることもできた。

3日間を通し、現地の人たちと積極的にコミュニケーションをとることが出来たと感じる。他言語間ではあったものの、翻訳アプリや身振り手振りを使いながら会話をすることができた。しかし、ユリさんから日本と台湾の身振りの違いをいくつか教えてもらい、自分の常識が通用しないことがあることも知った。それと同時に翻訳アプリを介したとしても若干のニュアンスの齟齬が生じることもあった。言語的なコミュニケーションとそうでない非言語的コミュニケーションどちらにも限界があることを知り、2つをうまく組み合わせて会話をするのが大事だと分かった。

最後に、3日間という短い間ではあったが一緒にたくさんの経験をした7人の仲間たちと、五味さんと中込さんをはじめとする事務局の方々へ感謝の気持ちを述べるとともに、この貴重な経験から得た国際交流の難しさや今後の課題を活かし、成長していけるように努力したい。

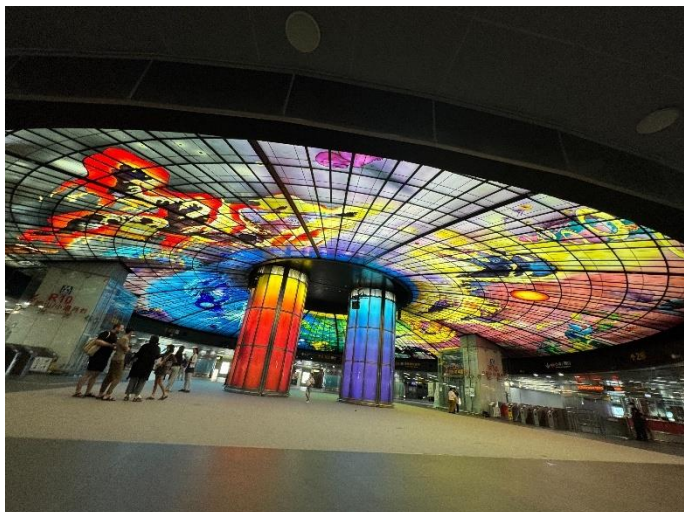


私は、若いうちに海外との交流経験を積んでおきたいという思いで今回の高雄市との国際交流事業に参加しました。正直、今回一緒に研修に参加したメンバーと初めて顔合わせした時は、3年生が私だけだったという事もあり、「自分だけ浮いているのではないか」とかなり緊張していました。しかし、結果から言うと今回研修に参加して本当に良かったと思っています。

台湾では日本のサブカルチャーであるマンガやアニメがとても親しまれていて、親日的だという話は聞いたことがありましたが、実際に現地に行き、台湾の方々と交流してみても様々なことを実感しました。台湾に行くのは初めてだったのですが、高雄市に降り立って驚いたのが、街全体がものすごく綺麗だという事です。空港からバスで移動した際に街並みを眺めていましたがゴミがほとんどなく、とても清潔な国だと感じました。2泊3日という短い期間でしたが、その中でも特に、中山高級工商職業学校の皆さんとの交流が強く記憶に残っており、一番充実した時間でした。

生徒全員が本当にウェルカムに出迎えてくださり、とても親切に接してくれたことにとっても感動しました。学校に向かっている時は緊張していましたが、生徒の方々が私たちに興味を持ち、沢山声を掛けてくれたことで、すぐに緊張がほぐれました。それぞれ二人組に別れた後はクラス代表の二人が案内してくれました。二人は私たちも分かるようなアニメの話題を振ってくれたり、飲み物を買ってくれたり、荷物を持ってくれたりと本当に細かいところまで気を配って楽しく案内をしてくれました。私たちが交流したクラスは英語学科の三年生だったのですが、第二言語にも関わらず発音が綺麗で驚かされました。学校を案内してもらった後、教室で皆と雑談をしながらご飯をいただきました。沢山の方とお話をしましたが、日本人よりマンガやアニメが好きな方が多いなと感じました。昼休みにお昼寝の時間があり、日本の学校との考え方の違いを感じました。日本では感じることをできない、台湾の日常の雰囲気を感じることができました。休み時間のあとのレクリエーションでは、ダンスや歌、ビートボックス、ジェスチャーゲームなど様々な企画を披露してくださり、交流するとともにとても楽しませていただくことができました。皆と写真を撮ったり、連絡先を交換したりして仲良くなったこともあり、お別れの時間が来てしまったときは本当に寂しかったです。台湾の高校に行って交流するというのは、今回のような機会がなければ絶対に経験する機会がないので、本当に有意義で貴重な経験になりました。

この交流経験を今後の活動に積極的に生かしていけたらと考えています。また、今回の仲間との出会いを大切にしていきたいです。



今や韓国やハワイなどとも並ぶ大観光地である台湾。台湾の観光人気は右肩上がり。物価の安さ、日本からの距離が近いこと、新日の国家であることなど、さまざまな魅力がある国だ。

台湾の空港に到着してまず感じたのは、日本とは異なるにおい。そして暖かい空気。今日から三日間この国で過ごすんだ、心が躍った。

三日間を通して、移動している道中で私が驚愕したのはバイクの多さだ。

台湾について深く調べていくうちに、交通事故が多いということを知った。人口密度の高い台湾で車両の数が多いことは不思議なことではない。とはいえ日本もそれなりに人口密度の高い国の一つであるだろう。私は日本では台湾に比べて公共交通機関が発達しているのではと考えた。日本の都市部では車に頼らないライフスタイルを維持している。

台湾では交通事故の発生増加には歯止めがきいていない。都市開発や交通に関する法律の充実を目指し、より安全に旅行できるようにしていけば、観光地としての安全性の向上だけでなく、現地の方々の生活の質を上げることもつながっていくのではないかと思う。

まじめな話もそこそこに、現地での滞在の話をしていく。

一日目は移動の一日だった。現地に到着し、現地の海鮮料理を食べに行った。日本とは異なる香辛料が香る味付け。初渡航だった私にはワクワクがとまらなかった。そのあと、六合夜市に行った。私は治安がどうなのか心配していたが、夜市で日本人にあたりみんなで買い物したりと充実した時間を過ごせた。夜市で感じたのは現地の方の暖かさだ。どんどん食べなおまけまでつけてくれた。日本にはあまり見られない環境だったのでとても楽しかった。日本でも一時期大ブームだったが、本場のタピオカはびっくりするくらいおいしかった。二日目は高雄市政府への表敬訪問から一日が始まった。次に訪れたのは、中山高級工商職業高校。生徒のみんなも教師の皆さんも私たちのことを歓迎してくれた。台湾の学生がどんな生活をしているのか、日本の生活との相違点をたくさん発見しながら過ごした。それぞれのプレゼンや学校紹介、ゲームなどを交えながら交流を深めた。英語のクラスだったが日本語を教えたり、たくさん写真を撮ったりした。国をまたいだ友達ができたことがとてもうれしかった。

そして最終日、三日目。私が訪れたのはなんと、病院だった。深夜に体調を崩してしまったのだ。初めての海外で体調を崩してしまい、私は焦っていたが、みんなが助けてくれた。感謝してもしきれない。病院では、すべて英語で応対した。スムーズに受け答えをすることができたので少し自分の英語に自信がついたように思える。みんなと観光をすることができず残念だったが、みんながしていない体験をできたと考えれば悪くはないかもしれない。

三日間、私が意識していたのは、臆せず現地の人々と話すことだった。全く知らない言語が飛び交っている社会。今まで体験したことのない高揚感だった。簡単な言葉でいい、すこしでも意思疎通ができると、とてもうれしかった。

振り返ってみると、国際交流や言語活動への興味がより一層強まったことを感じた。

長くなりましたが最後に、この国際交流事業に協力してくださったすべての方、そして一緒に行った七人の仲間たちへの感謝の気持ちを表し、報告書を以上とさせていただきます。

本当に、ありがとうございました。

